

第1回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会 会議録

1 日 時 令和4年(2022年)5月30日(月)19:00~20:30

2 場 所 大津コミュニティセンター 学習室4・5・6

3 出席委員 8人

4 事務局等	教育総務部	部長	古谷	久乃
	学校教育部	部長	米持	正伸
	教育政策課	課長	飯田	達也
	教育政策課	主査	大堀	圭輔
	教育政策課	担当者	丸山	昇悟
	教職員課	課長	平石	拓
	学校管理課	課長	二見	裕
	教育指導課	課長	川上	誠
	支援教育課	課長	小谷	亜弓

大津行政センター 館長 望月 正彦(オブザーバー)

横須賀市立小中学校適正配置審議会 委員 櫻井 聡

5 傍聴者 9名

6 議事内容

○飯田教育政策課長(事務局)

みなさん、こんばんは。それでは、定刻となりましたので第1回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会を始めます。

会議を開催する前に、傍聴及び会議録について確認します。本協議会は、「地域別小中学校教育環境整備協議会の傍聴に関する実施要領」に基づいて、傍聴を認めています。また、会議録については公開します。会議録作成のために、録音します。

委員の皆さま、よろしいでしょうか。

◀ 各委員から異議なしの声 ▶

傍聴の方は、ご入室ください。

それでは、次第に沿いまして、1の教育総務部長あいさつです。

◀ 古谷教育総務部長あいさつ ▶

○飯田教育政策課長（事務局）

続きまして、本日が第1回目の走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会となりますので、委員の皆さまを事務局から紹介します。座席の順にお名前をお呼びします。

◀ 各委員を紹介 ▶

委員の皆さま、ありがとうございました。

続きまして、教育委員会事務局、オブザーバー、横須賀市立小中学校適正配置審議会委員の出席者を紹介します。

◀ 教育委員会事務局、オブザーバー、横須賀市立小中学校適正配置審議会委員の出席者を紹介 ▶

それでは、議事に入る前に、会議資料について確認します。

◀ 会議資料を確認 ▶

それでは、資料1「地域別小中学校教育環境整備検討協議会設置要綱」をご覧ください。この要綱は、本協議会の設置や運営などについて規定しているものです。この要綱に基づき、本協議会を運営して参ります。

要綱では、資料の中程になりますが、「第3条第1項」で「協議会に委員長を置き、委員が互選する。」と規定しています。

また、第2項で「委員長は、会務を総理し、会議の議長となる」と規定していますので、委員長選任後は、委員長に会議の進行をお願いすることになります。

そのため、まず委員の皆さまの中から、委員長をお選びいただきたいと思います、どなたかご意見はありますか。

◀ 地域別小中学校教育環境整備検討協議会設置要綱に基づき、委員長を選出 ▶

○飯田教育政策課長（事務局）

続いて、「要綱第3条3項」に「委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代理する」とありますので、委員長から指名をいただければと思いますが、委員長いかがでしょうか。

◀ 地域別小中学校教育環境整備検討協議会設置要綱に基づき、委員長職務代理者を選出 ▶

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、本日の議事を進める準備が整いましたので、改めて第1回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会を開催します。

「地域別小中学校教育環境整備検討協議会設置要綱」第4条第2項の規定により、本協議会の開催にあたっては、半数以上の委員の出席が必要となりますが、本日は、委員11名中8名が出席されていますので、本協議会は成立しています。

それでは、これより進行を委員長にお願いしまして、議事を進めます。委員長よろしくお祈いします。

（委員長）

それでは次第の4、議事に入ります。事務局から説明をお願いします。

◀ 資料3、4及び横須賀市立小中学校適正配置審議会の会議の概要（未定稿）について事務局から説明 ▶

（委員長）

ただいま事務局から説明がありました内容について、ご質問やご意見がありましたら、挙手をお願いします。

（委員）

走水に来てまだ日が経っていませんが、小さくて良い学校で、子どもが卒業した学校は残してほしい気持ちですが、現状を鑑みると個人的な願望では難しいと思います。

少子化は全国的な問題であると思います。先行して合併している小中学校で、起きている問題や成功事例のデータを集めて、このような場で生かしていけたら良いと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

事例につきましては、次回以降にご報告したいと考えています。

（委員）

走水小、馬堀中を卒業し、現在も走水に住んでいます。自分が卒業した学校が無くなるのは寂しいです。

過去にPTA会長を経験し、今も続いているホタルの里の整備計画を実行に移しました。ホタルの里も走水小が合併して、無くなってしまうと寂しいです。おやじの会を立ち上げて、子どもたちに工作を教えたり、昔話を聞かせたりといった活動を行ってきました。

過去には、走水小の児童数が200人近くいた年もあった。それがいつの間にか50人ほどになってしまった。個人的な感情としては無くしてほしくないが、少子化の世の中の流れでは致し方ないのかなと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

学校が無くなってしまうというお話でしたが、走水小だけでなく学校は地域の拠点であると考えています。また、走水小と馬堀小は歴史がある学校ですので、皆さまの意見を伺いながら、心配な点等あるかと思しますので、一つずつ丁寧に説明しながら進めていきたいと思います。

（委員）

私も走水小、馬堀中を卒業しています。現在も走水に住んでいます。以前は、久里浜に住んでいました。上の子どもがいる時に久里浜に住むか走水に住む考えた結果、走水に住んでいます。二人の子どもが走水小を卒業しています。

PTA会長を経験し、私が卒業した時の児童は300人程度いたと思います。下の子どもが卒業した時には、120人程度でした。当時も現在も横須賀市全体の小学校の児童の割合はほとんど変わらずに、他の学校でも当時は、現在の児童数の3倍はいたのではないかと思います。

児童数が一気に減ったのは、海上自衛隊や防衛大学の官舎が無くなったことと、県営走水団地の老朽化が原因だと思います。過去に、海上自衛隊の官舎が無くなるということで、多くの方が横須賀市、走水から離れたくないけれども、住むところが無いので引っ越すという方が数10人いました。それも踏まえて、今後、県営走水団地がどのように整備されていくかなどの情報があれば教えていただければと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

県営住宅の今後の展望については、確認します。

(委員)

上の子どもが走水小に、下の子どもが幼稚園に通っています。走水に引っ越してきたときは、上の子どもも生まれておらず、走水小の人数の少なさが心配でしたが、友人が走水に住んでいて、友達というよりも家族のようだと聞きました。いつも海で遊んで、子どもを育てるには良い環境だという話を受けて走水に住みました。

子どもは、小学校が大好きで人数が少ないから嫌だと聞いたことはありません。喧嘩もしますが、濃い人生を送っているのかなと思います。走水小には他の学校には無いものがあります。プールが無いから海で泳ぐとか、海の幸集会やサツマイモを育てて食べるということを楽しみに入学しましたが、コロナ禍でまだ、一度もできていませんが、他の学校で経験できないことを経験させてあげられることは、嬉しいことだと思います。

周りの方に聞いた結果、地元としては、走水小に通わせて、上の子どもと同じ学校に通わせてあげたいと思っている方が多かったです。1クラス10人から、中学校になると40人になると聞いて大丈夫かなと思いますが、子どもはすぐ慣れると思います。学校から海が見えて、波の音を聞きながら授業が受けられる学校は他には無いと思います。

横須賀の目指す姿である「あなたが好き 私が好き 横須賀が好き」に走水が好きと言いたいです。子どもも走水小が良いと言っており、卒業するまで地元で通わせてあげたいという思いが強いです。

走水小が無くなったとして、今は走水小の運動会と健民運動会を地域と一緒にやっていますが、それがどうなってしまうのか、地域との関わりが減ってしまうのかという不安があります。

(委員長)

馬堀小でも焼き芋を食べたり、おやじの会を立ち上げたりと類似している活動をしています。走水・馬堀は自然豊かで良いなと思います。

○大堀教育政策課主査(事務局)

走水小の小規模な教育、家族のような雰囲気であるということで、先生方のご尽力によるものと思います。ただ、先生の頑張りだけではカバーしきれない、集団活動の制限、万が一、人間関係等のトラブルが起きた時の対応が難しい部分があるのかなと思います。そういった際に先生の頑張りだけではなく、教育委員会として教育環境の面から、整備していきたいという考えもありますので、ご理解いただければと思います。

必ずしも小規模が全て悪いとは考えておりません。良い面、心配な面があると思います。教育委員会では、心配な面について、対応していきたいと思います。

(委員)

走水小の教材の豊かさに感動しています。目の前の海を感じながら、見て過ごすことは大きな勉強となり、漁業や海の幸、歴史、神話、パワースポットである走水神社、水源地、美術館、観音崎公園、ホテルの里もあります。

地域のご協力もあり、稲作もしています。挙げてはきりがなほの素晴らしい学習材が走水小にはあると思っています。

コロナ禍で活動できていなかったことが変わりつつあり、この学習材をもう一度地域の皆さまと一緒に再発見していくことにワクワクしています。本協議会の意見が審議会に伝わり、審議会の中で、方向性が見いだされていきます。意見が反映されるようお願いできればと思います。

統合までの猶予がどのくらいあるのかが大きなポイントになるのかなと思います。結果ありきではないと思いますが、お伝えいただければなと思います。

審議会で出された意見を本協議会でも共有していただければと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

審議会と協議会の情報については、事務局からそれぞれ情報提供します。

(委員)

走水小は、自然豊かで、歴史を生かした特色ある教育がされていることが伝わってきて、素晴らしい学校だと思いました。また、小規模でも温かい学校の雰囲気の中で、これまで困ることがなく、教育活動ができてきたことを知ることができました。

今後、馬堀小の児童数は減少します。現在、3年生が単学級となっており、この先、他の学年も単学級となっていくことを考えるとこれまでの活動ができるのか心配になっています。普段の学校の教育活動の視点から見たときに、3年生だけが単学級となり、それを生かした温かい学級づくりや学級活動はいくらでも工夫してできるのではないかと思います。努力や工夫だけでは難しいこともあると感じています。

児童の学習面、体育の集団活動、音楽の合唱等において活性化した授業を行うためには、ある程度の人数が必要なのかなと思います。

また、子どもたちの授業の中で話し合う活動、共同活動では、やはり多くの友達の意見を聞き、一緒に活動することによって生まれる広がりや深まりは、ある程度的人数が必要だと感じてしまいます。

また、生活面についても単学級では、学級編制ができず、6年間同じクラスとなります。学級のルール、文化がなかなか変わらず、年度が替わっても価値観や人間関係が固定化してしまうことが心配です。学級編制を行うことによって、新しいルールを作っていこうとする気持ちが生まれます。

人間関係がうまくいってれば良いですが、もしそうでない場合は、学級編制が新しい人間関係を作るチャンスになるのではないかと感じています。

(委員長)

馬堀小のPTAは今年から休止してしまいました。その代わりに、馬堀小サポーターズクラブという地域が全面的に何でもやるクラブがあります。子どもたちに安全安心で、楽しく学校にいてほしいという思いで活動しています。

地域づくり協議会は元々、PTAをサポートして地域を明るくする活動をしていました。2カ月に1度、連合町内会、町内会・自治会長、民生委員、子ども会会長、体育振興会、学校関係者で忌憚のない会議をしています。今は、汗水たらして、校庭の芝生化をやっています。学校の先生方は、忙しいため、地域が草刈りや地域の見守りパトロールをやっています。馬堀は温かい方が多く、現役の保護者は忙しいため、高齢者がやっています。子どもが明るくならないと地域は良くならないと思います。走水小と似ている部分があると思います。

(委員長職務代理者)

市として児童数が少なくなることは分かっているのだから、空き家に補助を出して、若い人を呼ぶというようなことは考えていたのでしょうか。

教育の面から見たら、数字的な話になりますが、走水は呼び込める環境が整っていると思います。市が補助していけば、こんなに少なくならずに増えるかもしれません。こういったことを今まで考えていたのか、市として、増やす方法を考えたことがあるのかをお聞きしたいと思います。

○大堀教育政策課主査(事務局)

定住促進や若い世代を呼び込むというお話ですが、これをやれば増えるということではなく、教育、福祉、子育て、医療の充実、防災、安全、地域コミュニティ、産業振興、観光の充実等の総合的な方策を全市的に取り組んでいくことによって、定住促進や若い世代を呼び込むことに繋がると思います。

今回は、学校の老朽化、小規模化を課題として検討していますが、全市的な課題については全市的な検討の中で取り組んでいくものと考えています。

(委員)

現状の小学校はどのような規定で配置されたのか伺いたいです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

一定の基準はありません。

中学校同士が同じ住所で隣り合わせていたり、地域の端に学校が設置されていたりしています。当時の人口増に伴い、空いている土地や旧軍の土地に建てた経緯があると思います。地域の人数に対して、学校が一つという形では建てていないと思います。また、人口減少に伴い配置のバランスがいびつになってしまった状況もあると思います。

（委員）

そうすると無計画で建てたということですか。

○米持学校教育部長（事務局）

明治になり西洋の学制というものを日本に導入し、学校が始まりました。

その時の横須賀の人口や町の配置等を見て、当時、横須賀の村々に学校を作ろうと始まったと思います。第2次世界大戦が終わり、新しい学制が変わったときに、旧軍港転換法（軍転法）という法律のもと、旧軍が使っていた土地等は無償で学校や公共の福祉に関わる施設としました。

そのような広大な土地は学校が建てやすいので、そこに新しい区割りを作りました。横須賀市の特徴的な事例として、坂本中と不入斗中と旧桜台中が同じ敷地に建てられていました。その時々状況に応じて配置していました。

決して無計画なわけではなく、人口増加に合わせて学校を建設してきましたが、今は逆の時代になり、それらをどのように減らしながら、一番良い配置にするかを考えなければならない時代になってきたと考えています。

（委員）

走水にはお寺が3カ所あり、その中の大泉寺という境内で走水小を立ち上げました。明治に地元の強い意志で建てたと聞いています。その後走水神社、海岸地域に移した経緯があったと思います。

走水は良い地域であり、これからも自然の中で子どもを教育できたら良いと思いました。

（委員）

周りの保護者は、統合後は、スクールバスで通うのか、路線バスで通うのか、通学定期代金の補助があるのかを心配しています。高学年は1人で行けるが、小学1年生は、1人で行かせられません。

また、駄目と言っても歩いて帰ってきたときに事故にあったらどうするのか、通学

時間やスクールバスに乗り遅れた場合の対応、コロナ禍における3密の回避を気にしていました。

震災があったときに、馬堀小の子はどこに避難するのでしょうか。

(委員長)

馬堀小と馬堀中が避難場所となっています。

(委員)

迎えに行くときにどのような経路で迎えに行けば良いのか、津波の危険があるなかで海沿いを歩くのか、不安な子どもをどれだけ待たせるのかについてお聞きしたいです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

通学手段についてですが、基本的に今回の教育環境整備計画は子どもたちの学校生活における安心安全のための計画にもなっています。その方策によって、通学距離が遠距離になり、安心安全に支障があるのであれば、それなりの対応を検討しなければならないと考えています。

安心安全の対応についてはご意見を伺いながら、地域の実情もありますので、総合的に判断して検討していきたいと考えています。

(委員)

学校運営と教育方針の違いは何でしょうか。

「横須賀市立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針 改定版」の17ページの中で、学級数が少ないことによる学校運営上の課題等が記載されていますが、横須賀市は、どのような教育方針をもっているのか、目指す教育方針はなにかをお聞きしたいです。

○米持学校教育部長（事務局）

教育方針と学校運営方針というものがあるとすれば、教育方針が大きなものとして掲げられていて、それを実現するための具体的な方策として、運営方針、運営方法があるのではないかと思います。

教育方針においても、より大きな教育理念というものがありますが、横須賀市の教育振興基本計画では、「あなたが好き 私が好き 横須賀が好き と誇れる人づくり」を掲げています。

これは、子どもに限ったことではなく、大人の方も含めて、横須賀に住んでいる人、関わりがあれば誰もが、どこか遠い国にいる人でも、横須賀に関わりがあった人

が、日本には、横須賀という良いところがあるのだよ、ということが広がっていくような、そういう横須賀市の教育を続けていきたいという大きな話があります。

具体的にどのように進めていくのかを考えたときに一つ一つの方針が必要となります。その方針を継続的に進めるためには、運営していくことが必要なため、学校運営上の運営方針や運営方法が必要となってくると思います。

(委員)

市として子どもや転入者を増やす努力についてどのように考えていますか。

県営住宅の方針、個人的な感想だと、市長が谷戸の再生や観光の充実等のエンターテイメントが好きであるとお見受けするが、それが、人口の増加に繋がればいいのですが、狭い地域のことも考えて、子どもを増やすような方策を市としてどのように考えているのかを次回の場で聞かせていただけたらと思います。

(委員)

統廃合ありきで話が進んでいくわけではないと思ってよろしいでしょうか。

その中で、いろいろなことを踏まえて最終的に決定するという意味合いでよろしいでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

今回は第1回のため、各小中学校の状況や課題等を委員の皆さまと共有し、心配ごと等の意見をいただいています。2回目以降で方策等を説明しながら意見を伺いたいと思います。

(委員長職務代理者)

自衛隊の官舎があるが、災害があると国へ派遣されてしまい、母親と子どもが残されました。東日本大震災の時は停電となり、小学校に避難しました。

自衛隊関係者の中には、走水の魅力に触れて、家を買いたいと言っている人がいると聞いています。統廃合することが目的でなければ、空き家をうまく利用して、若い人を呼び込み、人口を増やすような方策も検討してほしいです。こんなに自然がいっぱいあるということを宣伝して、呼び込んでいただければと思います。

(委員長)

そろそろ終了のお時間が近づいてまいりましたが、ご意見質問、意見はよろしいでしょうか。

ここで話し合われた内容について、事務局の方でまとめていただき、次回の資料として、提示してください。

それでは、協議については、ここまでとします。

本日予定をしておりました議事を全て終了しましたが、全般的なことでご質問やご意見はございますか。

よろしいようですので、これで第1回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会は終了とし、進行を事務局へお返しします。

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、事務局から連絡事項についてご説明します。

本日の会議録についてです。確認用の会議録が作成できましたら、お送りします。内容をご確認いただき、修正がある場合には、送付文に記載の期日までに、事務局へご連絡ください。修正しました会議録を皆さまへお送りし、ホームページ等で公開します。

次回の開催予定ですが、この場にて、皆さまのご都合を確認したいと思います。

◀ 次回の開催日の確認 ▶

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、次回は、7月19日（火）19時から大津コミュニティセンターにて開催します。開催通知は後日、お送りします。

よろしく申し上げます。

スケジュールについて、ご質問がありましたら、挙手でお願いします。

ご質問等がないことを確認しました。

委員長、委員の皆さま、ご協議ありがとうございました。

以上で第1回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会を終了します。

以上